

9月11日(木) 第2回例会報告

中山善行さん(学童保育役員を歴任された方)が話されました 29人が参加

テーマ「乙訓の子育て運動 昔と今 - 子どもはどう変わってきているのか」

乙訓 住民自治研究会の「地域を知る」第2回例会には、29人の方々が参加されました。最初に2市1町の保育現場から今の実態について話がありました。また、この例会に京都学童連絡会や保育所保護者会の資料の提供があり、乙訓の学童保育、保育所運動の資料と若干の歴史について説明がありました。



京都市内から乙訓地域に移り住んできた人は、子育ての条件のよさ、とりわけ公的な保育・学童保育のよさを感じています。水と子育てが乙訓の良い象徴という方もおられます。日本経済の高度成長に沿って、ベッドタウンとしてまちが形成されてきた乙訓。乙訓の一つの側面、子育て住民運動がこうした乙訓をつくってきた力であることは明らかです。

例会では、保育や学童保育運動の歴史を振り返りつつ、今と昔の子どもの変化を中山善行さんに話してもらいました。

中山さんの話

京都市は「安全であればよい」というのが学童保育についての行政の指導だった。乙訓の学童保育は、子どもの成長を中心に議論し、学びながらやってきた。子ども自身で体験できることが日常生活にあります。保護者と先生の協力で体験できる状況をつくるのが大切だと思います。また、運動の中で「指導員の処遇で年金支給が低い状況は問題」という課題も取り上げてきました。

子どもの育ちという議論の中で、経験や体験が人を育てる力になるのではないかと。学童で「遊ぶ」ということは評価しない、勉強・学習という点数で分かることだけが評価基準になっているのではと思います。子どもの育ちのような学習指導が欠けている。点数だけでなく、自分のやりたいことを見いだしてやれる力、いろいろなことが出来る力をつけるのが学童保育だと思います。日本はこうしたことを評価しない傾向です。テレビでやってましたが、アルツハイマー(脳の病気)の進行を遅れさせる、または改善するにあたって、次のことが重要なポイントだそうです。一つは「目標をもつこと」、二つは「体を動かすこと」、三つは「いくつものことに挑戦すること」です。体を動かすこと(遊び)を軽視してはいけません。

子どもは、なんでも自分ですって、まてない。これから次のステップへの成長は「自分でがまんする」ことを覚えること。叱りどばしてなにかをさせると言うことは、自分で我慢する力をつけないこと

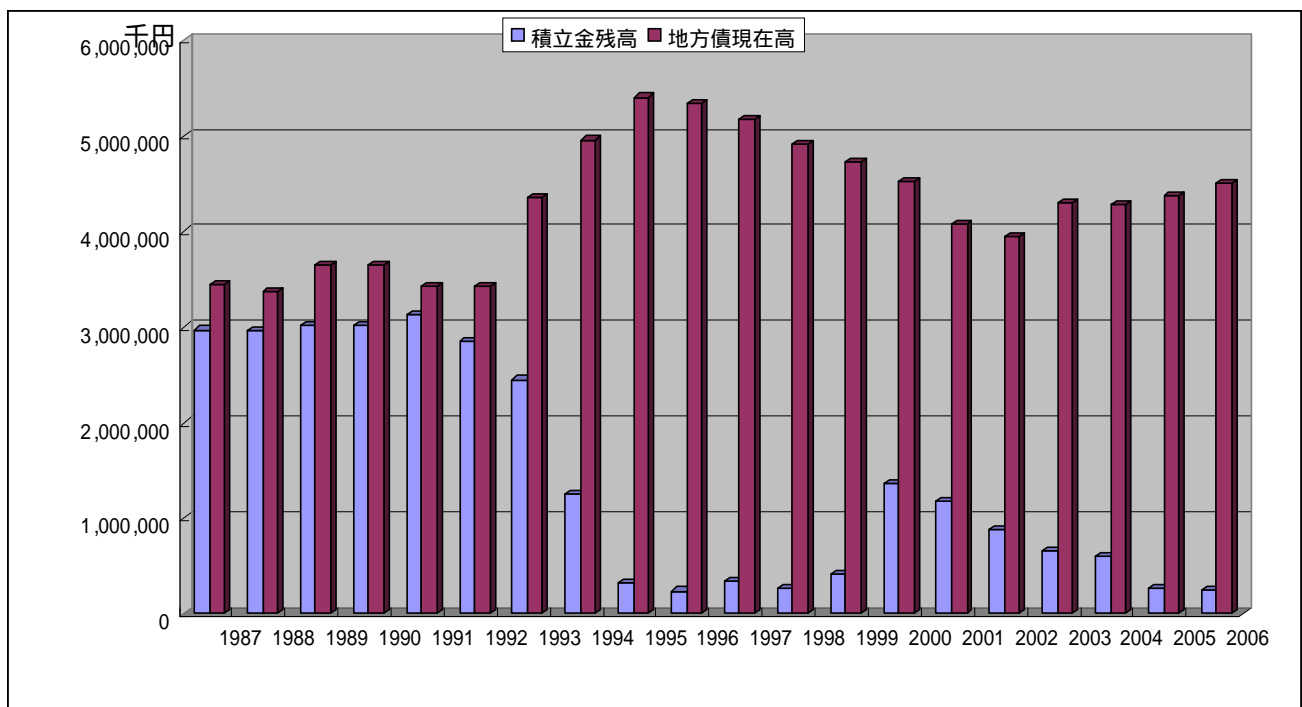
になるのです。

競争がすべて、競争がなければ社会は良くなれないと言ふ風潮で、社会の子どもを見る目が変わってきています(子どもが変わってきている)。しかし、これからは教育に求められるのは「人と協力できる力」を養うことです。学童保育の実践は指導員と父母の力によるもので、良い方向に変わってほしいと思います。

行財政分析検討会報告

2008年09月10日(水)18:00～ おつ研 第4回行財政検討会 報告

これまでの財政資料にもとづいて、ちょっとフリーに大山崎のまちづくりについて話し合いました。参加は町職執行部の皆さんでした。



次回は、この議論を整理し、その他資料も加えてミニレポート補強・修正し、専門家の方の意見も聞き10月中旬までに一応整理という手順です。

10月中下旬に町長との懇談を要請しようと相談しています。

次回の第5回世話人会 世話人の方々出席をよろしくお願いします

第2回の乙訓自治研集会の概要について相談します。

10月10日(金) 午後6時～ 大山崎町職書記室